

令和4年度 第1回 明和町総合教育会議 議事録

1. 日時 令和4年11月18日(金) 19:33 ~ 20:23
2. 場所 明和町役場 1階 研修室
3. 発言者 明和町長 世古口哲哉
明和町教育委員 田川昌之、辻美穂、中村一樹
荒木敬子、野口和宏
明和町教育長 下村良次
事務局
総務防災課：課長 松本章、係長 西川佳江
教育総務課：課長 菅野亮、係長 中西歩、係 山本歩美
こども課：課長 西村正樹
小学校区編制推進室：室長 中瀬基司

4. 概要

議題

「明和町教育大綱」について

【事務局】

本日の議題「明和町教育大綱」について、教育委員会より素案を作成したとのことなので、その件について報告をお願いします。

【教育課長】

最初に、今日はこの素案をまとめるにあたり、教育委員の皆さんには、本年の6月から10月まで約5か月にわたって、この内容についてご協議をいただいた。今日は素案という形でまとめたのでその報告をさせていただきます。

明和町教育大綱(案)という資料をご覧いただきたい。

2ページ、「未来を築く豊かな人間性と創造性を備えた人づくり」これを基本理念としている。これを実現するための基本方針、重点的に取り組むべき重点政策を3ページに定めている。

本大綱の位置付けは、明和町の教育行政を推進するための基本指針、第6次明和町総合計画の基本構想に定める基本目標における教育分野の基本目標、基本施策の方向性を定めるものである。

実施期間については、2023年度から2026年度までの4年間であるが、毎年総合教育会議において協議調整を行い、状況に応じて見直していくとしている。

3ページには大綱の柱として、3つの基本方針を設定している。1つ目は、幼児期から学齢期までの保育・教育の連携した取り組み、教育環境整備の推進ということで、幼保学校関係の指針となっている。2つ目は史跡及び日本遺産の活用や伝統文化の継承など明和町への郷土愛の醸成ということで、郷土芸能・郷土学習についてとなっている。3つ目が、子どもから大人までだれもが学び活かせる環境づくり、生涯学習の推進をうたっている。そして、このそれぞれ

の方針に沿って、具体的な基本施策を4ページ以降に設定している。

それから、本大綱の実施期間において取り組むべき重点政策ということで次の3つをあげている。1つ目はコミュニティスクール「人とのつながり」ということで、行政と学校・家庭・地域の連携・協力による教育環境の整備、このつながりによって開かれた学校づくり、まちづくりを進めるということ。2つ目が小中一貫教育「学びのつながり」ということで、小中ギャップをなくし、子どもたちが自己肯定感を高められる教育環境、学びを継続することによって、心の安定、学力向上を進めるということ。3つ目は、郷土学習「ふるさとのつながり」としている。郷土について学び、郷土を知ることで郷土ふるさとを大切に思う気持ち、また郷土を誇りに思う気持ちを育む。この3つを重点政策として位置付けている。学校と地域と家庭、人と人をつなげて、郷土の歴史や文化との学びをつなげ、また郷土ふるさとを大切に思う気持ちをつなげた学校づくり、地域づくりを進めることで、ふるさと明和の未来を築く豊かな人間性と創造性を備えた人づくり、本大綱の基本理念を実現していこうというものである。

続いて4ページからが基本施策になっている。3ページの基本方針に基づいて各基本施策を設定している。1つ目、幼児期から学齢期までの幼保教育を保障するための教育委員会・家庭・地域が連携した教育環境の整備の推進ということで、(1) 幼児教育・保育の充実、(2) 小・中学校教育の充実、(3) 安全・安心な学習環境の整備、(4) 学校・家庭・地域で教育に取り組む社会づくり、この4つに分けている。さらにその中で各項目に具体的な事項を明記している。事項ごとに点をつけて、具体事項をあげている。

具体事項として、(1)は幼児教育・保育の充実として、子育て支援の推進や幼保こども園、小中学校等への切れ目ない支援の推進などを具体事項として明記している。(2)については、内容を細分化して、①学力の向上と多様な教育への取り組みの推進、②人権教育の推進、③情操教育の推進、④健やかな体の育成、と4点に分けている。この①の学力の向上と多様な教育への取り組みの推進として、7つ取り組み事項をあげているが、その中で、小中一貫教育の推進、斎宮跡等郷土学習の充実を特に重点政策として位置付けた。小中一貫教育を進めていくためのカリキュラム編成などに郷土学習をあつく組み入れ、子どもたちの地域への愛着を育み、将来を担う人材育成を図る。②人権教育の推進では、社会的な問題となっているいじめ防止等の取り組みの充実や、人権を重視した学校づくりの推進、インクルーシブ教育の推進なども盛り込んでいる。④の健やかな体の育成では、中学校の部活動の地域移行の推進を項目の中にあげている。全国的な教員不足や、教員の働き方改革、また少子化の中で部活の設置自体が難しいというような状況の中で、部活動の地域移行について政府が急速に進めているということであるが、当町についてもこの4年間でしっかり行っていかなければならないということで捉えている。(3)においては、①教育・保育環境の充実として、小学校区の再編制や、公立認定こども園の整備などをあげている。それから②安全教育の推進として、4つ目に、感染症拡大防

止対策の推進という事項を新たにあげた。新型コロナウイルスの拡大によってこの2年半、幼保学校、また社会教育においても、大変な被害を受けたが、引き続き、きめ細かい対策が必要と考える。(4)については、開かれた学校づくり「すべての学校にコミュニティスクールを」として、コミュニティスクールの導入を重点政策としてあげている。このコミュニティスクールの導入に含まれることでもあるが、地域との教育活動の推進や、地域による学校支援体制の整備推進なども具体事項としてあげている。②は家庭教育の向上、③は子どもの居場所づくりの充実、として、現在、課題の一つにもなっている不登校対策についてここで事項としてあげている。

次に基本方針2つ目の史跡及び日本遺産を活用したまちづくりの推進と地域の伝統文化を継承していく郷土愛に満ちた人材の育成というところでは、(1)郷土の歴史遺産や伝統芸能・文化の振興として、4つの具体事項をあげている。その中で、特に小中学生に対する郷土文化学習の推進、これを重点政策として提示をし、郷土愛に満ちた人材の育成に取り組む。

最後に3つ目、子どもから大人まで、だれもがいつでも、どこでも学び活かせる環境づくりの推進では、生涯学習の推進、スポーツ・レクリエーション活動の推進、青少年の健全育成の充実、文化・芸術活動の推進という4項目に分け、これも具体的な取り組み事項を明記している。

以上のような形で素案をまとめたので報告させていただく。

【事務局】

ただいまの説明について、質問、意見等があったら願います。

【町長】

教育委員さんにまとめてもらったので教育委員さんからあまり意見は出ないと思うので、私の思いを言わせていただく。

3ページの重点政策の部分、コミュニティスクールと小中一貫教育については、小学校区再編の関係で、これを取り入れていくということであっていただいた。コミュニティスクールという地域の方が学校運営に入って、運営にも携わるとするのは、新たな小学校を地域の学校として認めてほしいというのが思いとしてあったため、入れるべきだと考えた。

それから小中一貫教育については、小学校6年生と中学校1年生のギャップもあるし、カリキュラムの中で重なったことを教えるところがあるので、そこを解消していく。保護者の方は、いい教育をするまち、いい教育をする学校をすごく好まれる。明和町は23,000人の人口だが、人口維持というのが一番町の活力を維持するのに必要だと思っている。そのためには、いい学校をつくることによって、子育て世代の方が明和町に移住してきてもらうことで、まちづくりに繋がるという思いもあり、この部分は入れていただいたと思っている。

それから3番目の郷土文化学習について、私たちが子どもの時に齋宮跡の勉強をしたかと言ったら、ほとんどしていなかった。明和町の齋宮跡というのは、

唯一無二の存在であり、日本国内どこにもない。いうなれば宝にできるものだと思っているので、齋宮小学校だけではなく、明和町の子どもたちが齋宮跡を宝に思うような教育をしてほしいと思っている。そのことが、また明和町で育った子が、明和町にそのまま住み続けていただけるのではないかと、また、大学など県外に出ても、就職の時に帰ってきたり、就職が難しかったとしても、将来的に明和町に帰ってくるという思いになってくれるのではないかとこのころがある。そういったことから齋宮跡を中心とした郷土学習を取り入れていく必要があるため盛り込んでもらったと思っているので、私としては、十分私の思いをくんでいただいたありがたい大綱にさせていただいたという感想である。

【教育長】

私たち教育委員会としても、基本的には町長の思いを十分盛り込んだ中で、この大綱をまとめなければいけないと思ひ、教育委員の皆さんには本当に多様な意見も出していただいた。

コミュニティスクールについては、統合し、新しい地域づくりをしていく中で、コミュニティスクールの仕組みなどの学校づくりがまず大事だということ掲げてやってきた。その中で小中一貫教育も進めていこうとやってきた。

基本方針もしっかり決まったので、この大綱にそって、私たちが住民説明会、保護者の説明会の中で言わせてもらってきたこと、「みんなに喜んでもらえる学校づくり」をしていかなければいけないと思っている。この後はハードな部分はもちろん、小中一貫教育、それから地域学習、郷土学習の充実を図って、より地域が一体となっていけるような学校づくり、今町長が言ってもらったような、多くの方がここに住んでもらうようなまちづくりをしていくことが大事だと思っている。

本大綱に沿って私たち教育委員会としても、これがしっかり進んでいくよう、目標に近づけることを一生懸命考えていかなければいけないと思っている。町長の今のお言葉を頂く中で、これで大綱を策定し、新しい次の4年間を進めていくことになるので、皆さんまたよろしく願ひする。

【事務局】

ありがとうございました。委員の皆さま方、この案でご了承いただけるとうことでよろしいか。

ありがとうございます。それではこれで明和町教育大綱を策定するのでよろしく願ひする。

それでは次に進めさせていただく。その他の項であるが、この機会に意見提案等あれば願ひする。

【町長】

統合の小学校建設について、今年度で業者を決めていくにあたり、調査をしたところ、デザインアンドビルド方式という形で設計から施工まで一括発注し、

少しでも経費を安くし、建設期間も少しでも短くできるので、それでさせていただくことになった。ただ、建築費のコストが高騰している関係で、当初よりも1.3倍くらい高くなるのではないかとということで、財政的には非常に厳しい状況になっている。しかし、これまで教育委員会の方で各校区等、住民さん含め皆さんに令和8年4月の開校ということで説明してきていただいたので、そこを目指してやっていく。待ったらどうかという話をされる方もいるが、待ったら建築資材の高騰が下がるのかといたら、それは誰もわからない。逆に上がるのではないかと言う人もいる。そうした中でいくと、やはり説明してきた通りにやるというのが、最も望ましいと思うのでそのようにしていきたい。

それから、小学校区編制推進室の方で跡地利用検討委員会や、学校運営の委員会などを立ち上げていただいて、皆さんの意見も聞きながら、いい学校にしていきたいと思っている。跡地についてもいいものにしていきたいと思っている。ただ、町の方も、跡地を全部町の方で管理していくとなると、維持管理費がでてくるので、できる限り民間で活用してもらえないかというのを考えている。それがいい場合については町でどうするか考えていきたい。

民間で活用してもらおう時に、なんでもいいということでもない。それぞれ地域性や、立地条件がある。津波などを考えた中で、一番どういったものが民間でやってもらう場合にいいのかというところを跡地利用検討委員さんに提案いただき、公募をかけるなどしていく。貴重な意見をいただきながら、できるだけいい方向に進めていきたい。

【事務局】

意見、提案などあれば願います。

【教育委員】

子どもたちが大きくなって明和町を出て、また戻ってきた時に、生活の土台となるところ、例えば企業をもってくるなど、そういった明和町の構想はあるのか。

【町長】

現在明和町に工業団地は2、3箇所あるが、ほぼ空いていない状況。工業団地の拡張なども考えていけないが、働いてもらえる場所、企業誘致など進めていけたらと思っている。明和町は伊勢と松阪の間ということもあって、ベッドタウン的なところもある。人口維持を図っていくためにも商業系をのばしていくのも大事なことかと思っている。

現在イオン周辺で道の駅ができないかと考えている。令和3年度に国交省の補助金をいただいて調査を行った。道の駅ができれば人は来ていただけるだろうという結果であったが、コロナ禍のため、商業施設に聞くと、今はとてもそんな投資をするような状態ではないということで、商業的な可能性はあるが、今のコロナ禍では難しいという結論が出た。コロナはずっと続かないと思って

いる。コロナ後を見据えて、整備に向けて考えていきたい。最初は町で整備するという考えをもっていたが、23号線から直接アクセスするような道の駅にした方がいいと県からアドバイスをいただいた。その関係で国にも働きかけを行い、国も整備に入ってもらいたいと要望させていただいた中で、令和4年に、国が道の駅の整備をできるかどうかという調査をしている。その結果次第になるが、道の駅がくることによって商業施設をひっばってこれないかと考えている。商業施設ができればそこで雇用がうまれると思っている。雇用口についても当然考えていかないとけない。そこも考えながらいろいろ取り組みは進めていく必要はあると思っている。

【教育委員】

若者たちが明和町に来たいなと思ってもらえるような、移住者などへの支援として、例えば住宅を安くするとか、空き住宅に入ってもらったら援助をするとか、そういったことはないのか。

【町長】

移住などで家を建ててもらう方に補助を出している自治体もある。それによって移住してくる部分は確かにあると思う。しかしそれは明和町より人口が少ない、過疎化している自治体がよく行っている。今は補助がなくても家を建ててもらえる明和町でそれを行うと、財政的にすごく厳しい状況に陥ることもある。将来的には入れるべきかというのも検討をしながら、いかに維持していくかということを考えていく必要がある。

【教育委員】

明和町は子育て支援がすごいところ、みたいなPRができればいいと思う。

【町長】

できる限りはソフト面で行きたいと思っている。ハード的な部分の支援よりも、子どもが大事だと思ってもらえる取り組みの中の一つとして、子ども食堂がある。地域の人や高齢者の方にも携わってもらうことによって、子どもからお年寄りまでの居場所づくりに繋がる。高齢者の方もやりがい、生きがいにつながると思っている。

【教育委員】

それもすごく大事。地域あつての学校、学校あつての地域という感覚でいるので、学校がなくなってしまうのは、地域の方はすごく寂しい思いをされていると思う。高齢者の方も地域の生きた教材として引き込むことで、多くのコミュニティがうまれないか。大きくなった人が帰りやすい、それからまたこれから子育てしていく人たちにも、魅力ある明和町となるように願います。

【町長】

いろいろ検討させていただく。

【教育委員】

住宅が増えていくところは学校も整備が整ってきて、たくさん若い方たちも住んでいただいているという感じであるが、これから学校がなくなっていく地域は、人口が減っていき、新しい子ども達が増えることも少なくなってくると思う。その地域をどのように紹介していくかを考えていくべき。その地域の魅力を発信できたらいいと思っている。そのいい方法や、いい知恵をたくさん集めて、私たちも教育の立場で何かできることがあるのであれば、そこをやっていけばいいと思うが、その場所をどんどん活用して、こんな魅力があるんですよと盛り上げていっていただけたらという気持ちでいる。

【町長】

おっしゃるとおりで、学校はコミュニティの核として存在していると思う。跡地利用検討委員会を立ち上げ、住民の方も入ってもらってやっているのは、学校はなくなるが、そこを跡地利用して、地域の活性化や、地域コミュニティの維持を踏まえた上で、どういったものを持ってきてもらうのがいいのかなど、議論してもらっている。そこで出た意見というのは地域コミュニティの維持に繋がっていくと思っている。

大淀と下御糸は、津波避難タワーとしての機能も絶対残さないといけないので、建物の用途は別として、高さだけは残しておく。いろいろ考えてもらった上で、いい跡地利用しながら、その地域コミュニティの維持に貢献できるようなものができるのが一番いいと思っている。他にもいろいろ政策はしないといけないと思っている。

【教育委員】

跡地利用の検討をしながら、それに先駆けて、その地域の魅力を先に発信できると、その跡地利用をしたいという方もみえたりするので、前段階で本当はできたらいいと思う。町も関わっていただいて、今、しないといけないと思うのだが。

【町長】

大淀の場合、津波リスク以上に魅力をどう発信するかというのはある。大淀が好きなお子さんが多いと思う。今も帰ってくるご家庭もあるが、この状況がずっと続くかどうかというのは、この状況が続けるためにどうするかということだと考えている。例えば地域に子ども達や若い方が残ってもらうには、祭りは大きな一つの要素と思っている。大淀だと祇園祭がある。下御糸だとみいとフェスタがある。そういった伝統行事や祭りを守りつつ、その良さを、先ほどの郷土学習に繋がるところでもあるが、その地域を好きになってもらわ

ないと離れていく。そこをいかにやっていくのかが一番大事だと思っている。

【教育委員】

さびれていく町の姿をみるのはすごく寂しい。そういうことのないように、学校がなくなるというものの、もう一つ大きな学校ができていくので、どういうふうに関わりを持ちながらやっていくのか考えていただきたい。

【町長】

大淀で育った子は大淀が好きの子が多い。しかし例えば結婚となると、リスクのあるところには行きたくないというのがあったりする。そのため大淀から出るが斎宮に家を建てられる方もいる。どうしてもそこに住まないといけないと難しいかもしれないが、できるだけ残ってもらうことは必要だと思っている。

あと、高学歴になればなるほど、明和町だけではなく、三重県内であっても働く場がそんなにない。そうになると、どうしても都会に残る子が多くなる。特に最近は普通科の高校だけではなく、商業学科、工業学科でもほとんどの子が大学へ行っている。大学を卒業し、帰ってきてこちらで働き口はあるのかというと、なかなかない現状だと思っている。現役世代は都会へ行っても、引退されてから来てもらってもいいと思う。そこでまた活躍してもらい、例えば子ども食堂に携わってもらったり、地域の空き家を利用して、何か地域コミュニティの活性ができるようなものを作っていただくなど、そのような形にもっていったらと思っている。

【教育委員】

建設費が高騰しているが、ぜひ建設費をキープし、今、建設予定をしている規模をこれ以上小さくしないようにしてほしい。

【町長】

学校のクラス数などは当然減らすことはできない。ただ、以前は独自でこの部屋というのがあったが、併用できるような形で検討し、若干、規模的には小さくなったが、必要な部屋数は確保した上で、併用できるところは併用していくという形をとれた。小さくしすぎて子ども達が通いたくないような学校にしても意味がないと思っている。

【教育委員】

既に一度規模縮小をしたので、次はないようにしてほしい。

【町長】

今の段階ではない。デザインアンドビルド方式の中でいい知恵を出してもらい、より安価にいい部屋を作ってもらえたらと思っている。

【教育委員】

いい学校や、未来の子ども達が育っていくためには保育士とか、教員の資質も大事だと思う。働きたいと思うような学校や保育園にしてもらいたいし、明和町にもしてもらいたい。働きやすい環境というのをすごく大事にしてもらいたい。働く人の意見をしっかり聞いて、定数を確保していただくとか、自分も生活も安定していくということにも心を使ってほしい。中の人意見を聞いて、それを改革してもらおうといいと思うので、よろしく願います。

【町長】

幼稚園、保育所については、当然町職員になるので、いろいろ意見はいただくようにしているが、なかなか難しいところがある。幼稚園、保育所の統廃合により、最終的には3園になる。以前は7園あったので、人的な部分でいえば7園ある時よりは少なくなる。低年児のところには保育士の人数が多く必要となる。人数が多くなると人間関係もいろいろあつたりするので、そこをどういうふうにやっていくかというのはある。正職員を確保するのも必要だと思っているが十分となると難しい。気を付けてやっていきたい。

小学校については県職員になるので、県に対しても処遇改善や学習支援員の配置をしてもらえようになど、国や県に他市町と一緒に要望している。少しでも先生たちにゆとりあるようにしてもらいたい。その中で、中学校の場合だと、部活動の地域移行がある。部活動が好きな先生もいると思うので、その先生の思いは砕かないようにし、外部に委ねた方がいいところは外部に委ねるようになっていく。指導者をどうやってみつけるのかということも難しい。人と人の繋がりで確保していくのが必要だと思っている。外部講師を入れて、少しでも先生たちが教育に専念できたらと思っている。

【事務局】

貴重なご意見、本当にありがとうございました。

以上で令和4年度第1回明和町総合教育会議を閉会させていただく。

ありがとうございました。